

第2回（通算第21回）子育て講座（子育てについて聖書に聞く会）

2018. 7. 19 子供の家幼稚園

宗教主事 浦上結慈

「愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい」

（エフェソの信徒への手紙5：15）

宇和島時代、私が30代の半ば頃、幼稚園の園長・理事長をしていた時のことです。「水平社宣言」の「そしてこれ等の人間を勦るかの如き運動は、かえって多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である」を読んでいて正直、へこたれるほどドキリとしました。「ここに『人間を尊敬する事によって』とあるけれども、私はこの『尊敬』の中に『こども』を含めて考えたことがあったらどうか…」。

こどもはかわいいです。宇和島時代、園長机の下に園児が2人入っていたので何をしているのかとのぞいてみたら、お昼に食べる弁当をそれぞれが出し合っただけで見て合意をしておいたのです。「私のお弁当どう？」「これはお母さんが作ってくれたお弁当！」。なんと園児たちは弁当をとおして自分の「お母さん自慢」をしていたのです。お母さんがこどもからどんなに慕われ、自慢され、愛されていることか。それを目の当たりに見て「なんて子どもはかわいいんだ」と思ったことが今も強烈に脳裏にあります。

しかし、それは子どもは「かわいい」という捕らえ方なのです。「そのこどもを尊敬しているか」と先の「水平社宣言」で鋭く問われたのです。「こどもはかけがえのない人格をもって生まれてきた人間であり、それは尊敬に値する」。この理解に至っていない自分を深く反省したことを思い出します。

今日の聖書は「愚かな者としてではなく、賢い者として、細かく気を配って歩みなさい」とあるのですが、私たちはこども（たち）を尊敬しているのでしょうか。かけがえのない人格者であることを受け止めて尊敬しているのでしょうか。

吉岡たすく監修『思いっきり、愛あるふれあい』の中で「子どもの誇りを傷つけない」として次の文章がありましたので紹介します。

「マサコちゃんは、しっかりとしたシンの強い子どもです。お母さんは、マサコちゃんの『自己主張』がすぎると叱ります。しかしマサコちゃんの自尊心を傷つけるようなことばはつきません。一般に子どもの自尊心ということについて関心が薄いようです。子どもには子どもなりの自尊心があるのは当然です。自尊心は自分を大事にする心から生まれてくるものです。大人になると、『自尊心を傷つけられることが多い』と、お父さんはお母さんの顔をみながら嘆きます。男は女（母親）によって育てられ、女（女房）によって傷つけられる、とお父さんはいいます。

子どものころは、まだこの自尊心が傷つけられたりせず、鍛えられてもいないのですから、根こそぎ子どもの自尊心を傷つけるようないい方をするのは危険です。

マサコちゃんのお母さんは、こういいます。

『マサコってほんとに強情っぱりなんだから、それに生意気よ』

そういわれても、自己主張型のマサコちゃんは、ぺろりと舌を出すだけです。

『そうかなあ、わたし生意気かなあ』、それですんでしまうのです。しかし、『マサコ、あなたってずるい子ね。それに卑怯よ』といわれたら、マサコちゃんは自尊心を傷つけられ、反抗するでしょう。

なぜなら、マサコちゃんは『ずるい人』、『卑怯な人』を軽蔑しているからです。そういう人間にはなりたくないと思っているからです。

小さい時に親に言われたひと言が将来になってまでも悪影響を与えてしまうくらい、私たち親のひと言って、本当に大切です。親は何気なく言った言葉でも、こどもの心を深く鋭くえぐることになるのです。「ずるい人」「卑怯な人」だけでなく、ショックを子どもの心に与えてしまうような言葉は注意すべきことです。

私たちはどんな言葉遣いをしているでしょう。点検する必要がありそうです。

■上記の文章は、7月19日（木）開催の原稿です。多くの保護者の方々が集まってくださり感謝です。有意義なひと時でした。

■次回は新年度です。9月20日（木）に計画しています。